

# 鳥見の記 散策を楽しもう

## 第3回 さくらの杜公園周辺の鳥たち

2018.4



朝早くから「**チョットコイ、チョットコイ**」の鳴き声で目覚める日々となりましたが、さくらの杜公園での鳥見体験はいかがでしたか？

近頃は、気候変化の影響かもしれませんが、見かける鳥の数と機会が減っているような気がします。ここ2年くらい、冬鳥のウソやベニマシコは、さくらの杜公園やその近辺では見ることができず、ビンズイ、ヤマガラ、シメも残念ながら見られません。

カケスやオナガも声は聞こえてくるけれど、カメラの前に現われてはくれず、バーダーには憤懣<sup>ふんまん</sup>やるかたない冬となってしまいました。それでも「**チャッ、チャッ**」と地鳴きしていたウグイスが「**ホーホケキョ**」と鳴き変わる恋のさえずり声に誘われ、カメラを携え今日も鳥見に出かけていきます。今回は、[第2回「さくらの杜公園で小鳥を見つけよう」](#)で紹介できなかった野鳥を含めて、春から夏の野鳥を鳥見しましょう



## 鳥見のポイント

◇ その日見た鳥の時間と場所を覚えておきましょう！

次回見られるチャンス大！

## コジュケイ

### 守谷市のシンボルとされる鳥

### 「**チョットコイ、チョットコイ**」と鳴く

コジュケイは大きさ27cm の留鳥で、雑木林・草地に生息します。ウロコ模様の体で頭部の青灰色と赤茶色のコントラストが特徴。地上で草の新芽や種子・昆虫<sup>えさ</sup>を餌



谷地の原っぱで3月末頃から早朝 5:30 頃には鳴きだす

としています。茂った草地や低木の下にいたので鳴き声が聞こえても見つけづらい鳥です。狩猟用の目的で台湾原産の鳥が 1919 年に東京都と神奈川県に放鳥されたのが始まりで、それが広がり繁殖しました。日本の自然環境がコジュケイの習性にマッチしているようです。

# ハクセキレイ

「チピッフイ、チーチーピ」と鳴きながら  
波状を描いて飛ぶ

ハクセキレイは、どこでも平地で最も普通に見られるセキレイです。

大きさ21cm で、平地から山地の草地か河原に生息する留鳥。額から顔が白く、胸は黒、白い顔に黒い過眼線か がんせん（くちばしの元から眼の前後を通る線）が特徴的です。



オスは頭・背が黒色



メスは全体に灰色っぽい黒色



恋の三角関係？ 右奥がメス



水浴びするオス



セキレイの仲間は、河原系と草地系に分かれています

**河原系**： ほぼスズメ大の大きさとで尾羽が長く、上下に動かしながら歩く。鳴きながら波のうねりのような波状飛行をするのが特徴で、主に水辺を好み生息する。

**草地系**： ビンズイ、タヒバリなどで、河原系より短い尾羽を上下に振りながら歩く。開けた草地や林で昆虫を採取し生息する。

## キセキレイ

### さくらの杜公園の名無し橋のたもとで 「チチチィ、チチチィ」とさえずる

キセキレイは大きさ20cm で、池や川、溪流に生息する留鳥です。背中が青灰色で腹と腰が黄色、眉斑(眉の上の模様)に白線、足色が肉色にくいろがであるのが特徴。長い尾羽を上下に振りながら昆虫などを食べます。



ガを捕まえたところ



落ちた熟柿の実をついばむ

## セグロセキレイ

### 水辺で行動する日本固有のセキレイ 「チィチィー、チィチィーッ」と鳴く

セグロセキレイは、大きさ21cm で、平地から山地の河川や湖沼に生息する留鳥。腹が白く、胸は黒で眉斑びはんが白いツートンカラーです。尾羽を振る習性や波状の飛び方はハクセキレイに似ていますが、ハクセキレイより濁った鳴き声をしています。



## ベニマシコ

さくらの杜公園の橋近くのアシ原から  
「フィッ、フィッ」と澄んだ小声で鳴く

ベニマシコは、大きさ15cm、平地から山地の林縁に生息する冬鳥。



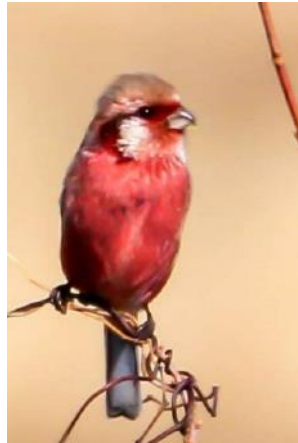
オス



メス



オス



オス



メス

尾が長めで、オスは胸・腹・目先が紅赤色。メスは全体に明るい茶色をしています。

## ビズイ

3丁目の谷地の松の木あたりで  
「ツイィチョイチョイ」と鳴いている

ビズイは大きさ16cm の漂鳥または冬鳥で山地から平地に生息します。

セキレイの仲間なので尾羽を上下に振る習性があり、地上で昆虫を餌とし、冬にはマツやタデの種子も食べます。キヒバリの別名を持ち、繁殖期には高い小枝でヒバリのようにさえずって、枝から枝へ低いディスプレイ・フライト<sup>①</sup>をする鳥です。

### 鳥識①

ディスプレイ・フライト：求愛行動時の特殊な飛翔で、鳴きながら大きな波形を描いたり、急降下したりして飛ぶこと。



## アトリ

3丁目ロータリー先の大木に群れで止まり、  
「キョッ、キョッ」と鳴く

アトリは大きさ16cm。冬にシベリヤから飛来してくる冬鳥で、平地から山地の草地や林に生息します。肩と胸の橙色が目立つ鳥ですが、大群が空を覆い、雲のように見える光景は壮観で、西日本の水田地帯でよく見られます。



## カシラダカ

さくらの杜公園の裏の雑木林で  
「ピーチュルピー」と鳴く

カシラダカは大きさ15cm の冬鳥で、平地から山地の林縁やアシ原に生息します。頭部のツンツンした短い冠羽<sup>かんう</sup>が特徴で、低木や河原で数十羽の群れで見られます。林と水田が近接する丘陵地帯の谷戸<sup>やと</sup>(谷あいの低地)がよく見られる観察ポイントといわれています。



# ホオジロ

## 軽やかに「チュピーチュルルピピロピー」と春を告げる！

ホオジロは大きさ17cm の留鳥で、平地から山地の林縁に生息します。喉・頬・<sup>びはん</sup>眉班が白く、背中に黒い縦縞があるのが特徴です。みずき野では、3丁目ロータリー先の店裏の空き地から3丁目の谷地・さくらの杜公園の裏の雑木林で見られます。

白い頬がホオジロの名の由来ですが、実際には頬線は黒く、胸や腹は淡い茶色で尾羽が長い鳥です。春の繁殖期には、木のテッペンや電線など目立つ場所でさえずります。その鳴き方が「一筆啓上 <sup>つかまつ</sup>仕り候」「札幌らーめん味噌らーめん」と聞こえ、「聞きなし<sup>②</sup>」になります。



オスは過眼線が黒い



メスは全体に淡い褐色



オス



オス



メス

鳥識<sup>②</sup> 聞きなし：  
鳥の声を意味のある人の言葉に置き換え、昔から言い伝えられる言い回しのこと。ウグイスの「法華経」、ホトトギスの「特許許可局」、コジュケイの「ちょっと来い」等。

鳥識③ 托卵<sup>たくらん</sup>:

他種の鳥の巣に卵を産み、その親鳥にひなを育てさせる。カッコウ科の鳥に多い繁殖法。

古くは、ホオジロもカッコウ等の卵を托卵<sup>たくらん</sup>③させられていましたが、今ではホオジロは自分の卵を認識するようになり、托卵はさせられていません。ちなみにカッコウの今の托卵先はオオヨシキリやオナガに変わりました。

モズ

小さながらも猛禽のような肉食系の鳥

「**キー・キー、キチキチキチ**」と声高に鳴く<sup>こわたか</sup>

モズは大きさ20cm の留鳥で、市街地や農耕、河原や林縁に生息します。



オス



メス



オス



オス



メス

鳥識④はやにえ:

モズが鋭いかぎ状の曲がったくちばしで捕えた獲物を小枝や有刺鉄線などに刺しておく習性。

モズはよく高鳴きをして縄張りを宣言し、小声でウグイスやセグロセキレイ等の鳴きまねをすることから、漢字では「百舌」と書いて「もず」と読むのが興味深いですね。また、その鋭いかぎ状の曲がったくちばしでバッタ、カエルやトカゲを小枝や有刺鉄線に刺しておく「はやにえ<sup>④</sup>」の習性を持つことでも知られています。



## カワラヒワ

### 第2調整池の草原やドングリ公園などで 「キリリ、コロロ、ビーン」と鳴く

カワラヒワは  
大きさ14cm の留鳥で、河原、林縁や  
農耕地に生息します。全体に緑褐色  
で肌色のくちばしと翼の黄色い部分  
が特徴。スギ、ヒノキやマツに巣を作  
り、河原にいるヒワから名づけられヒマ  
ワリの固い種子を割って食べます。



飛ぶと黄色い翼が目立つ緑褐色の鳥。冬の第2調整池の原っぱ



ドングリ公園



雨上がりの第2調整池の原っぱ

## ムクドリ

### 「ギャーギャー」とうるさい鳴き方をする

ムクドリは大きさ24cm の留鳥。市街地や農耕地に生息します。



群れを作って電線や大木に並んで止る姿をよく見かけます。全体に黒っぽい(メスは灰褐色)頭に白い毛があり、オレンジ色のくちばしと足が目印です。地上を歩きながらで昆虫やミミズを食べます。また翼を開きゆっくり滑空するその様<sup>さま</sup>から「空飛ぶ三角定規」の鳥ともいわれます。



### 「益鳥」か「害鳥」か？

昔はムクドリは益鳥とされ、1年間に一つがいで百万の利益を国家にもたらす「農林鳥(農作物の害虫を食べる鳥)」として扱われたが、最近では、農薬等により生息環境が変わり、都市部に適応化したため、ねぐらでの大群の鳴き声が騒音となり、また糞公害もあり、害鳥とされて「狩猟鳥(狩猟の対象とする野鳥)」扱いになった。

## オオジュリン

### さくらの杜公園裏のアシ原で 「チュリー、ジュリー」と鳴く

オオジュリンは、大きさ16cmの冬鳥で、平地のアシ原やヨシ原に生息します。草の茎につかまり、上下に器用に移動し、葉鞘<sup>ようしょう さや</sup>(鞘のように茎を包んだ葉の根元部分)をむいて中にいる昆虫を食べます。



頭部が褐色で淡褐色の眉斑と頬線。背には赤褐色で黒い縦斑がある。

## キジ

### 春先に朝早く「ケン、ケン」と鳴く

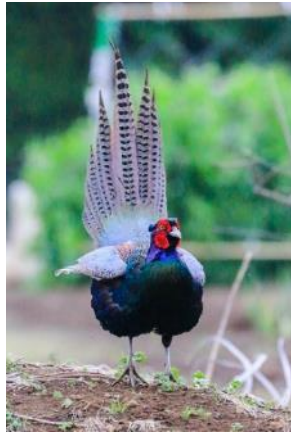
キジのオスは大きさ81cm、メスは58cm(留鳥)。草地、山地の林、農耕地などに生息します。オスは顔に赤い皮膚が裸出し、尾は長く胸から腹は青緑色の金属光沢で美しい輝きです。メスはオスより小型で全体に黄褐色に黒斑模様で、尾は短いです。



オス



メス



鳥識⑤ ほろ打ち：  
 キジが繁殖期に倒木や土塊に止り激しく羽ばたきし、けたたましく「ケーン」と鳴く行動。

「ケーン」と鳴く「ほろ打ち<sup>⑤</sup>」の縄張り宣言



戸頭駅近辺の家庭菜園の畑で縄張り争いするキジ

鳥識⑥ キジが日本の国鳥なった理由：  
 「肉が美味の狩猟用の鳥」のことらしい？とは、少し変です。また、キジは、岩手県と岡山県の県鳥でもある。

キジは昔から狩猟用に人工放鳥され、明るい草地に生息する彩り鮮やかな日本の国鳥<sup>⑥</sup>として愛されています。

鳥識⑦ 地震予知：  
 「キジが鳴くと地震が来る」は、人体が感知しない初期微動の地震波を足で感知するといわれ科学的に証明されているらしい。

## ウグイス

### 「ホーホケキョ」と春を告げる笹やぶのシンガー

ウグイスは大きさ16cm の留鳥で、平地や山林に生息します。「梅にウグイス」とよくいわれますが、蜜を吸うのはメジロでウグイスは昆虫を餌とします。

目立たない緑色っぽい茶褐色ですが、声の美しさからコマドリ、オオルリと並び称され「日本三鳴鳥」とされています。



12月頃～2月下旬 さくらの杜の裏のアシ原



サクラ並木のさくら坂道路を横切る水路沿いの雑木林

## ヒバリ

### 「ピーチュル、ピーチュル」と青空高く さえぎり続ける春告げ鳥

ヒバリは大きさ17cm  
の留鳥です。  
畑、草原や河原に  
生息します。



空高く飛翔しながらさえぎる



土塊の上でさえずる



餌をくわえ運ぶ



餌をくわえ麦畑の中の巣に運ぶ

羽は淡褐色で胸に黒い縦縞班があり、頭部のとさか状の冠羽<sup>かんう</sup>が目印の鳥です。さえずりの飛翔は、地上 100m の高さ、約5～10分位続くといわれています。昔、日本では飼い慣らしたヒバリを草原で放し「高さとさえずり」を競う「揚げ雲雀<sup>ひばり</sup>」の遊びゲームがありました。

## オオヨシキリ

「ギョギョシ、ギョギョシ」と  
大きな赤い口をあけさえずる。

オオヨシキリは大きさ18cm の夏鳥で、平地から山地の河原に生息します。オオヨシキリは生息環境がヨシやアシに限られるため、名前の由来が「ヨシ<sup>き</sup>限り」という説もあります。なお、「ヨシ」は、本来植物名としては「アシ」ですが、一般に関東ではアシ、関西ではヨシと呼ばれます。アシが「悪し」を想起させるため、反対の言葉の「善し」から「ヨシ」という別名がついて関西では使われるようになったようです。

直立したヨシやアシの茎に止まり、昼も夜も1日中縄張りを宣言するさえずりで鳴く鳥です。くちばしを大きく開け、橙赤色の口の中を見せてさえずる光景は印象的な姿。しかし夏の盛りが過ぎると、パタリと鳴かなくなります。また、オオヨシキリは、カッコウ<sup>たくらん</sup>から托卵(鳥識③参照)されることが知られている鳥です。



オオヨシキリは、  
ぎょぎょうし  
「行々子」という「聞きなし」(鳥識②参照)から付いた名で俳句の夏の季語になっています。



## 日本の県鳥と世界の国鳥一覧

### ●関東近辺の県鳥

福島県:キビタキ	茨城県:ヒバリ	栃木県:オオルリ	群馬県:コマドリ
埼玉県:シラコバト	千葉県:ホオジロ	東京都:ユリカモメ	神奈川県:カモメ
山梨県:ウグイス	長野県:ライチョウ	新潟県:トキ	

### ●他地方の県鳥

青森県:ハクチョウ	北海道:タンチョウ	大阪府:モズ	石川県:イヌワシ
京都府:オオミズナギドリ	鹿児島県:ルリカケス	山口県:ナベツル	

### ●世界の国鳥

アメリカ:白頭ワシ	ドイツ:シュバシコウ	フランス:ニワトリ	イギリス:コマドリ
-----------	------------	-----------	-----------

日本の県鳥や世界の国鳥をPCやスマホで調べてみるのも面白いと思います。

※第4回の「鳥見の記」は、みずき野周辺で見られる水鳥たちをご紹介します。

表紙の鳥名は？ いくつ分かりましたか？ 正解は... 次回までのクイズで～す。

3丁目のバーダー・サトー 佐藤 健三